

分野別
将来像

誰ひとり取り残さない，みんなで共に生きるまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・多様なニーズ，幅広い世代に対応することができるよう，様々な福祉施策を充実させるとともに，地域の中で自由に交流でき，助け合うことができる居場所づくりを推進します。
- ・ヤングケアラーやダブルケアラーといった『ケアラー』のケアに積極的に取り組むなど，多様なニーズに応じたきめ細かな相談・支援体制の構築を図ります。
- ・オンラインによる相談受付やオープンチャット等のデジタル技術も活用するなど，誰もが相談や交流がしやすい環境づくりに努めます。
- ・高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう，地域包括ケアシステムのより一層の充実を図るとともに，認知症支援や介護予防などの取組を進めます。
- ・様々な当事者の異なるニーズを踏まえ，色々な視点からユニバーサルデザインを検討するなど，誰もが自分らしく暮らすことができる，当事者目線のまちづくりに努めます。

《将来像につながるキーワード》

「多様性」「支え合い」「交流」「寛容」「安心」「地域」「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」「誰も取り残されない」「困っている人が生活しやすい」「身近な」「認め合い」「助け合い」「活力や安らぎ」「共生社会の実現」「住民同士の交流や参加の場」「つながり」「共感」「居場所」「交流したくなる居場所」「多様なニーズに合わせた支援の仕組みづくり(ヤングケアラー、ダブルケアラー)」「当事者同士がつながる仕組みづくり(リアルとデジタル両方)」「難病者への配慮(就労支援)」「目に見えない障害への理解」

まちづくりの
方向性と
基本的取組

<p>①地域での関わりを自然につくることができ，助け合うことができるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆様々なコーディネーターを身近な場所に配置するなど，地域社会の多様なニーズの解決に努めます。 ◆だれもが自由に交流でき，助け合い，共生することができる，居心地の良い居場所づくりを推進します。 ◆子育て世帯から高齢者まで，誰もが地域で手軽に支え合い，助け合えるような取組を実施します。 ◆災害時の避難場所において，バリアフリーに配慮するほか，集団生活に困難を抱える，災害時の要配慮者が落ち着いて過ごすことのできる場所を確保するとともに，要配慮者に対する理解の促進を図ります。 	<p>②多様なニーズに応じたきめ細かな支援体制が整ったまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ヤングケアラーやダブルケアラーなど，ケアラーが気軽に相談できる環境づくりに努め，ケアラーの負担を和らげるための支援の充実を図ります。 <small>※ヤングケアラー：本来大人が担うと想定される家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども(参照：厚生労働省 HP) ※ダブルケアラー：親の介護も担う，育児期にある者(世帯)(参照：内閣府 HP)</small> ◆デジタル技術を活用するなど，だれもが気軽に相談できる体制を整備し，様々な相談・支援情報を確実に得られることができるように情報発信の強化に努めます。 ◆デジタルデバイド解消のための取組と併せて，地域で情報格差を解消できる取組も推進します。 	<p>③高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域の連携・協力のもと，高齢者を地域の中で支え，全ての高齢者が安心して自分らしく暮らし続けられる地域づくりを推進します。 ◆高齢者が望む場所で安心して生活できるよう，切れ目なく必要なサービスを提供する地域包括ケアシステムの充実を図ります。 ◆認知症支援を充実させるとともに，住み慣れた地域で安心して生活できるよう理解促進に向けた取組を進めます ◆介護予防事業を実施するとともに，高齢者のつながりを創出し，より多くの高齢者が，介護を必要とすることなく健康的に日常生活を送ることができる取組を展開します。 	<p>④誰もが自分らしく暮らすことができる，当事者の視点を重視したまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆難病の方にも配慮した共生社会の充実に向け，「少しでも生きづらさを感じている人が生活しやすいまちづくり」が共通の課題認識となるよう，意識の醸成を図ります。 ◆外国にルーツを持つ方が抱える課題の解決に向け，多言語による対応など，分かりやすい情報提供や気軽に相談できる体制整備に努めます。 ◆歩行が困難な方や，ベビーカーの利用者，視覚障害の方などの異なったニーズを考慮し，ユニバーサルデザインを踏まえた視点から，だれもが安心して移動できるよう，歩道や道路の整備を促進します。
---	--	---	--

現状と
課題

<p>強み(良いところ，伸ばしたいところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他自治体に比べて，地域福祉コーディネーターや地域支え合い推進員など，地域福祉に関わる専門職が多い ○地域社会や公的サービスによる，支援が必要な方への見守り体制が充実している ○行政が対応しきれない部分を，社協などの関係機関がカバーしている，他 	<p>弱み(悪いところ，改善したいところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> △高齢者への生活支援サービスが他の自治体に比べて不十分 △ヤングケアラーへの支援(特に精神面)がない △障害者への理解を醸成するための取組は不足している △地域住民同士がつながりを得られる機会が少ない，他
--	---

分野別
将来像

次代を担う子どもたち一人一人の想いを尊重し、 みんなが安心して自分らしく過ごせるまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・障害当事者との交流の拡充や特別支援教育の更なる充実を図るなど、より一層、一人一人の「個」に焦点を当てた教育環境を整えることで、互いに尊重し、認め合い、支え合うことができる環境づくりを進めます。
- ・アレルギー対策については、過去に起きた事故の教訓を生かし、アレルギーを持つ子どもたちに配慮した学校給食の提供や対策マニュアルの見直し、理解を深めるための研修プログラムの充実を図る等、盤石な体制を継続します。
- ・地域に開かれた学校づくりによって、地域と学校との関係性をより密接なものとする中で、「地域に見守られた安全な学校」を目指します。
- ・小学生や中学生から18歳以上の年代も含めた、幅広い若い世代の想いや気持ちを尊重し、その一人一人がまちの「主役」であることを実感し、活躍することができる環境をつくります。

《将来像につながるキーワード》

「子どもの意見や人権を尊重」「意見を言える場」「子どもの頃から行政参加」「次世代の担い手づくり」「互いのよさや違いを認め合う」「安全・安心な学校環境づくり」「子どもが活躍できる場づくり」「心の壁のない教育」「気づき」を得られる交流」「特別支援教育の更なる充実」「事故を契機とした食物アレルギーに対する盤石な「調布モデル」の充実」「セキュリティバランスに考慮した学校づくり」「一人でもいられる場所」「心」の安心・安全」「一人一人に合った教育を提供できる体制」「若い世代がより主体的に地域で活動できる環境整備」「心の壁のない」「地域に開かれた学校」「地域と協働」「違いは豊かさと感じられる学校」「特別支援教育の質の担保・向上」「多様性を学ぶ機会を保證」「ユニバーサルな施設・設備を整備」「若い世代の居場所づくり(交流の場づくり)」「若い世代の主体的な地域参加をうながす(取り組み・環境・場)」「困難を抱えた若者を取りこぼさず支援」「幅広い若い世代」

まちづくりの
方向性と
基本的取組

<p>①子どもたちが互いに尊重し、認め合い、支え合うことができる心の壁のない環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子どもたちが自分と他者の違いを自然に受け入れ、多様性について「気づき」を得られる交流機会や教育体制の充実を図ります。 ◆年齢差、能力差、障害等に対する心理的な壁を感じることがない個に応じた教育、特別支援教育の更なる充実を図ります。 ◆より多くの障害当事者の経験を子どもたちに伝えられる場を設け、障害理解の促進に努めます。 	<p>②子どもたちが安心して過ごすことができる学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子どもたち一人一人を取り巻く環境に目を向け、それぞれの課題を解決するため、個に応じた教育・支援に取り組めます。 ◆食物アレルギーの子どもたちが多くいることを前提とした給食の提供や、アレルギーに関する教育・研修プログラムの充実を図ります。 ◆食材の選定を含めた、安全・安心な学校給食の提供に取り組めます。 	<p>③子どもたちが楽しく学び、みんなが行きたくなる、魅力ある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子どもたちが登校できない状況でも、自宅で学校教育を受けることができるよう、オンライン教育の充実を図ります。 ◆子どもたちの意見を尊重し、子どもたちが主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」の視点を取り入れた教育を推進します。 <small>※アクティブ・ラーニング: 教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称(参照: 文科省用語集)</small> ◆学校教育について、子どもや保護者も一緒に考えることで、みんながわくわくできる学校づくりを進めます。 	<p>④子どもたちが安全に過ごすことができる、地域に開かれた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域とともに学校づくりを進めることで、地域に見守られた安全・安心な学校を目指します。 ◆学校に限らず、児童・生徒が過ごす場所におけるバリアフリーの徹底を図ります。 ◆防犯・防災の観点からの「安全・安心」だけでなく、子どもたち一人一人の心の安心感を充足させられる学校づくりを目指します。 	<p>⑤若い世代が、いきいきと交流し、活躍できる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆同じ悩みを抱える若い世代が、互いに共感することができる環境をつくとともに、若い世代にとって、いつでも気軽に相談できる体制をつくります。 ◆若い世代が地域で活動したくなる、魅力ある地域づくりを進めるとともに、若い世代が、行政計画や地域の取組に参加しやすい環境を整えます。 ◆若い世代が居心地よく過ごせる場を増やし、若い世代の様々なニーズに対応した施策を進めます。
---	---	---	---	---

現状と
課題

<p>強み(良いところ, 伸ばしたいところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生・高校生向けの児童館として青少年ステーション CAPS がある ○全ての学校及びその付近において、放課後子供教室事業(ユーフォー)を実施している ○児童・生徒の安全・安心を確保するための取組, 他 	<p>弱み(悪いところ, 改善したいところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> △児童・生徒が多様性を認め合える教育が十分にできていない △児童・生徒数の増加に伴う教室の整備, 一人ひとり向き合う時間の確保 △学校施設の老朽化が進んでいる △18歳以上の若者に対する支援が弱い, 他
---	---

※斜体は、関連する個別計画等を踏まえ、追記した内容です。

分野別
将来像

子どもや子育てに対する寛容さに溢れ、 安心して子どもを産み、育てることができるまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・市民にとって身近な場所で、子育てに関する相談・支援の機能を拡充し、切れ目ない支援の更なる充実を図ります。
- ・子どもや子育てに対する市民の寛容さの醸成を目的とした広報や啓発的な取組を通して、地域全体で子育てを行う風土をつくります。
- ・行政だけでなく、地域住民や民間企業、NPO 法人、医療機関等の様々な主体が連携した、子育て支援を実施することで、調布市で子どもを産み、育てたいと思えるまちづくりを推進します。
- ・特別な支援を必要とする子どもたちやその家族が、安心して過ごせるよう、相談・支援体制の充実を図ります。

《将来像につながるキーワード》

「困ったとき」「誰もが、いつでも(デジタル関連)」「身近に(各児童館や福祉圏域(8圏域))」「迷わず相談できる機能」「子育て包括支援」「取り残されない」「調布で子どもを産み・育てたい」「子どもを産み・育てやすい」「切れ目のない支援」「様々な主体との連携・協力」「寛容」「相談できる」「産み・育てやすい」「子どもを産み育てたいと思えるまちづくり」「いつでも相談できる支援環境の充実」「子ども・子育てに寛容な地域」「官民連携によるサービス創出」

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①安心して子どもを産み、育てることができる、切れ目ない支援環境のあるまちづくり

- ◆様々な主体と密に協力・連携しながら、子ども・子育て施設の整備充実や多様なサービスの提供を推進します。
- ◆各地域の児童館など、市民にとって足を運びやすい身近な場所で、子育てに関する相談・支援機能の拡充を図ります。
- ◆妊娠期から子育て期にわたる、各ライフステージに応じた、一貫した継続的な支援を実施します。
- ◆「子どもを産み、育てやすいまちづくり」を推進し、調布の子育て環境の良さを市内外に積極的に発信します。
- ◆子育てに対する市民の寛容さの醸成を目的とした広報・啓発活動を推進します。
- ◆メールやLINEなどを活用し、様々なニーズに応じた効果的な情報発信やきめ細かな支援を実施するほか、子育てにおけるSOSの出しやすい地域づくりに取り組みます。

②特別な支援を必要とする子どもや家庭への支援が充実したまちづくり

- ◆子育てへの心身の負担軽減を図り、安心して過ごせるよう、市内のサービスを周知するとともに、利用状況に応じたサービスの拡充に努めます。
- ◆発達の遅れや障害など、課題を抱えた子どもたちやその家族に対して、引き続き、各種検診・検査の実施や発達センターでの相談事業などにより、支援します。
- ◆ひとり親家庭が必要な支援につながるよう、関係機関との連携・協力体制を強化しながら、相談支援の充実を図り、経済的な支援を実施します。
- ◆生活に窮する子育て家庭へ各種手当等に関する制度周知や相談体制を整えるなど、経済的負担軽減につなげるとともに、子ども食堂等、子どもの居場所づくりを支援するなど、総合的な対策を推進します。
- ◆双子・三つ子などの多胎児を持つ家庭が、安心して子育てできるよう、特有の悩みや楽しみなどを共感できるような交流の場や相談・支援体制の充実を図ります。
- ◆子育て世代包括支援センター(保健センター及び子ども家庭支援センターすこやか)等の機能を生かし、虐待予防や早期発見・早期対応や妊娠・出産・育児への不安の軽減につなげる取組等を推進します。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)	弱み(悪いところ, 改善したいところ)
<ul style="list-style-type: none"> ○子ども家庭支援センター「すこやか」など、子育てに関して相談ができる場所・団体が多く充実している ○子育てに関する情報の提供源が増えてきた ○ひとり親家庭への支援が充実している, 他 	<ul style="list-style-type: none"> △出産前からの切れ目のない支援が不足している △0~2歳児の保育園への入園が難しい △子育てに関して相談できる場所・団体が多く充実しているが、広報が不十分のために知らない人が多い, 他

※斜体は、関連する個別計画等を踏まえ、追記した内容です。

分野別
将来像

人と人とのつながりのなかで、だれもが 多様性を認め合い自分らしく安心して暮らせるまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・市民が気軽に集える場所や機会、情報提供の充実等を図り、市民同士がゆるやかにつながれる地域の形成を目指します。
- ・あらゆる差別や偏見がなく、すべての市民の人権が尊重され、一人ひとりが持てる力を存分に発揮しながら、自分らしく暮らせる地域社会の形成を目指します。
- ・国籍や言語等の違いを超えてすべての市民が、お互いの個性・特性を認め合い、だれもが心豊かに暮らせる共生社会の充実を図ります。

《将来像につながるキーワード》

共生社会, いろんな人, 多様なありかた, 性別や世代を超えて, 市民同士のふれ合い・つながり, ゆるいつながり, マッチング, 個性・特性を認め合う, コミュニティ

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①市民同士がゆるやかにつながれる, 暮らしやすいまちづくり

- ◆多様な市民がふれ合える機会を増やすため、活動拠点の整備や実施プログラムの開発、運営体制の見直しなどに取り組みます。
- ◆だれもが住み慣れた地域で、安心な暮らしと活躍の場を得られるよう、様々な地域コミュニティ活動に関する情報提供の充実等により、住民のコミュニティ活動への参加のきっかけづくりを推進します。
- ◆時代に合ったコミュニケーションツールを効果的に活用しながら、市民同士がいつでも容易につながれる仕組を構築します。

②一人ひとりの個性・特性を認め合い, だれもが安心して暮らせるまちづくり

- ◆市民一人ひとりがお互いの生き方を尊重し、心安らかに暮らすことができるよう、様々な機会をとらえ、人権意識の高揚や多様性に対する理解を深めるきっかけづくりに取り組みます。
- ◆自己の性自認・性的指向を理由とする差別や偏見、様々なハラスメント、インターネット上での人権侵害など、多様化する人権問題に適切に対応できるよう、当事者の声を受け止め、その人権を擁護するための活動を推進します。
- ◆仕事と家庭と地域生活との調和を目指すワークライフバランスの実現に向けて、市民・事業者の意識啓発を図ります。

③国籍・文化・言語等の違いを超え, だれもが共生できるまちづくり

- ◆国籍や言語等の違いを超え、外国人市民と日本人市民が互いの国の文化や生活習慣を理解し合えるよう、多文化共生・交流機会の充実を図ります。
- ◆国際交流関係団体等との連携・協力のもと、多言語による行政情報の提供や相談支援体制の充実など、外国人市民にとっても暮らしやすい環境づくりを推進します。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)

- 色々なレイヤーのコミュニティ, また拠り所がある
- 市内で地域の問題解決のために精力的に活動している人や組織
- 市外からの転入者と市内永住者が共存
- 「参加と協働のまちづくり」を基本的な考え方としている 他

弱み(悪いところ, 改善したいところ)

- △自治会, 町内会への参加者の減少
- △地域コミュニティの構成員や参加している人の固定化
- △新規で地域コミュニティに参加するハードルが高い
- △LGBTQ に対する理解が不十分, 他

分野別
将来像

世代や障害の有無等に関わらず、スポーツに親しめる機会を創出し、
だれもが生涯にわたって生き活きと暮らせるまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・それぞれのライフスタイルや健康課題に応じて、だれもが気軽にスポーツに親しめる機会や環境の創出・普及拡大を目指します。
- ・市内にあるスポーツ資源の積極的活用や国際的なスポーツ大会の開催地としてのレガシーの継承により、スポーツ人口の増加を目指します。
- ・既存施設の修繕・改修や設備機器の更新を計画的に推進し、だれもが快適かつ安全にスポーツを楽しめるまちを目指します。

《将来像につながるキーワード》

活力のある、だれもが、健康に暮らす、気軽に運動できる、多様な主体との連携、スポーツにふれやすい機会の創出、インクルーシブ

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①あらゆる市民が気軽に運動できる機会の充実

- ◆市民の身体面や精神面での健康の保持増進や健康寿命の延伸にも結びつくよう、一人ひとりのライフステージやライフスタイルに応じてスポーツに取り組める機会の充実を図ります。
- ◆市民が気軽にスポーツを楽しみながら交流を深められるよう、多様な市民が参加できる各種スポーツイベントの充実を図ります。
- ◆スポーツ関係団体と連携した取組を推進するほか、スポーツを支える新たな人材の育成・確保に努めます。

②安全・安心かつ快適にスポーツを楽しめる環境の充実

- ◆既存スポーツ施設の機能の維持・向上を図るため、老朽化の度合いに応じた改修・修繕や設備機器の更新を計画的に推進します。
- ◆市民が身近な場所で、気軽にスポーツを楽しむことができるよう、日常的に利用できる施設としての利便性向上や、効果的で効率的な維持管理・運営及び情報提供に努めます。
- ◆利用者のニーズを踏まえながら、既存スポーツ施設のバリアフリー化等のインクルーシブな施設改修を推進します。

③スポーツに対する関心を喚起するための取組の推進

- ◆プロスポーツチームや個人など、多様な主体との連携・協力により、より多くの市民がスポーツに関心を持ち、スポーツに親しめる機会の創出を図ります。
- ◆国際的なスポーツ大会の開催地としてのレガシーを継承しながら、様々なかたちで市民がスポーツに携わることができる機会の創出を図ります。
- ◆日頃スポーツをしていない市民も気軽にスポーツに取り組めるよう、スポーツに関する情報の速やかで効果的な情報提供に努めます。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)	弱み(悪いところ, 改善したいところ)
○味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザをはじめ、スポーツ関連施設が充実している ○プロからアマチュアまで、地域に数多くのスポーツ関係団体があり、スポーツにふれられる機会が豊富、他	△ジョギングやサイクリングなど、気軽にスポーツを楽しめるような環境 △スポーツ施設を利用するためのハードルがある △スポーツ施設の利用の仕方が知られていない △既存スポーツ施設の老朽化、他

分野別
将来像

多世代が生涯を通して学び合い、 心の豊かさが育まれるまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・だれもが自由に学べる学習機会の提供や学習環境の充実により、市民が主体的に学ぶきっかけが生まれるまちを目指します。
- ・市民同士が学び合い、交流を深めながら、より良い地域社会の実現に向けて学びの成果を活かせるまちを目指します。
- ・既存施設の修繕・改修や設備機器の更新を計画的に推進し、だれもが快適かつ安全な環境のもとで学び合えるまちを目指します。

《将来像につながるキーワード》

だれもが参加しやすい環境、生涯を通して学べる、自由に学べる、生きがいを感じられる、一人ひとりの知識や経験を活かせる、自主性

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①多世代が自由に学び合える機会の創出・充実

- ◆多世代が自由に学べる機会を創出するため、情報機器を活用したオンラインによる学習機会の提供など、デジタル技術を活用し、場所的・時間的な制約を受けずに、いつでも、どこでも学習できる環境づくりを推進します。
- ◆一人ひとりの知識や経験を活かせる場を構築し、市民同士が教え、学べる機会を拡充します。
- ◆若者や働く世代など、日頃、生涯学習への参加が少ない市民の学習に対する興味関心を高め、自主的な学習活動の実践へとつながるよう、生涯学習の普及啓発やきっかけづくりとなるイベントの実施など、多様なきっかけづくりに努めます。

②学びを通じた交流促進や学びの成果を活かす機会の推進

- ◆市民の学習意欲の向上や、学習を通じた交流を促進するため、学習活動の様々な成果に関する発表機会の充実を図ります。
- ◆市民と行政が協働で実施する生涯学習に関するイベント等を支援するとともに、様々な市民が主体となったまちづくり活動を支援し、学習の成果をより良い地域社会の形成へとつなげていきます。
- ◆Web サイト「生涯学習情報コーナー」の活用や生涯学習に係る人材情報の収集・提供を積極的に行うことで、学習の成果をまちづくりに活かす機会の確保に努めます。

③安全・安心かつ快適に学べる環境の充実

- ◆既存学習施設の機能の維持・向上を図るため、施設のバリアフリー化や老朽化の度合いに応じた改修・修繕、設備機器の更新を計画的に推進します。
- ◆より多くの市民が身近な場所で、気軽に学習に取り組むことができるよう、既存学習施設の利便性向上や効果的で効率的な維持管理・運営に努めます。
- ◆デジタル技術の進展に対応した学習活動を支援するため、必要な環境の整備を推進します。

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)

- 色々な人たちが参加できるプログラムが、行政や民間から提供されている
- 生涯学習の機会が多い
- 様々な職業の経験・能力を持つ方が在住しており、その方々の経験・労力を引き出すことができる、他

弱み(悪いところ, 改善したいところ)

- △生涯学習・サークルへの参加のハードルが高い
- △学習活動に参加するための連絡方法が電話やメールしかない
- △生涯学習に関する広報が不十分
- △学習成果のまちづくりへの活用が不十分、他

現状と
課題

※斜字は、関連する個別計画等を踏まえた内容です。

分野別
将来像

市民が郷土に深い愛着を持ち、 地域の芸術や歴史文化を発展させ、未来に繋いでいくまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・地域の有形・無形の文化的資源を大切に守り・活かし、多くの市民が郷土の歴史や伝統文化への理解や愛着を深められるまちを目指します。
- ・市民同士のつながりや地域コミュニティの醸成にも結びつくよう、市民主体の芸術・文化活動が盛んなまちを目指します。
- ・幅広い世代の市民が様々な芸術・文化について学び、優れた芸術・文化にふれられる機会が充実したまちを目指します。
- ・戦争の悲惨さや平和の尊さを風化させず、平和な暮らしを未来に繋ぎます。

《将来像につながるキーワード》

未来に受け継ぐ、まちに愛着を持てる、魅力を伝える、見る・知るだけではなく学び・ふれられる機会

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①歴史文化や平和の尊さに触れられる環境や機会の充実

- ◆地域の歴史文化を後世に受け継ぐため、体験できる場や機会の充実を図るとともに、情報収集と効果的な発信に取り組みます。
- ◆戦争の悲惨さや平和の尊さを風化させず、若い世代に着実に引き継ぐため、市内に残る戦争史跡や戦争の体験談を適切に記録・保存するとともに、これらを活用して平和の尊さを自分ごととして学べる機会の充実を図ります。
- ◆幅広い世代の郷土愛の醸成や観光振興にも結びつくよう、地域固有の歴史的・文化的資源が適切に保存・管理されるよう支援するとともに、積極的な公開や活用を図ります。

②市民主体の芸術・文化活動の振興

- ◆だれもが芸術・文化に興味関心を持つことができるよう、芸術・文化を見る・知るだけではなく、体験できる場や機会の充実を図ります。
- ◆人と人とのつながりや地域コミュニティの活性化にも結びつくよう、多様な主体が自主的に芸術・文化活動に取り組める環境づくりを推進するとともに、発表機会の充実を図ります。
- ◆市民の自主的・自発的な芸術・文化活動を促進するため、芸術・文化団体の活動に対する支援や指導者の育成・確保を図ります。

③市民が芸術や歴史文化とふれ合える環境の充実

- ◆芸術・歴史文化に係る施設機能の維持・向上、整備を図ります。
- ◆だれもが芸術や歴史文化により高い興味関心を持つことができるよう、デジタル技術を効果的に活用しながら、場所的・時間的な制約を受けずに、いつでも、どこでも気軽に芸術や歴史文化を鑑賞できる環境づくりを推進します。
- ◆利用者のニーズを踏まえながら、芸術・歴史文化に係る施設のバリアフリー化やアクセシビリティの向上、多言語対応等インクルーシブな施設改修を推進します。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)	弱み(悪いところ, 改善したいところ)
<ul style="list-style-type: none"> ○たづくり・グリーンホール・仙川劇場等の施設が豊富 ○神社仏閣等の歴史的文化財が多い ○文化活動が活発に行われている ○グリーンホールや駅前広場での催しが活発, 他 	<ul style="list-style-type: none"> △市内の文化財にふれる機会が少ない △子どもが文化芸術を体験するための機会が少ない △歴史的文化財及びその良さが市内外の人々に認知されていない △多様な文化イベントの周知方法が、時代のニーズに合っていない, 他

※斜字は、関連する個別計画等を踏まえた内容です。

分野別
将来像

だれもがチャレンジできる機会と、 わくわくする魅力や活気に満ちあふれるまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・さまざまな分野における新たな挑戦をオール調布で応援し、活発な経済活動が持続的に循環・発展していくまちを目指します。
- ・持続可能な未来志向の産業の創出を積極的に支援することで、豊かな暮らしの実現を目指します。
- ・人や組織の新たな取組により多様な価値が創出され、多くの人々の好奇心を刺激する魅力のあるまちを目指します。
- ・市内外に向けてさまざまな地域資源の魅力を効果的にPRすることで、より多くの人々に調布の素晴らしさを伝えます。

《将来像につながるキーワード》

チャレンジを応援、地域資源の活用、調布ならではの魅力、経済が循環する持続可能なまち、新たな価値の共創、賑わい、市民がわくわくする魅力

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①将来にわたって持続可能な農業を支えるまちづくり(農業)	②創業・起業等のチャレンジを応援するまちづくり(創業・起業)	③既存企業の経営の革新を支えるまちづくり(既存企業)	④地域資源を活用した賑わいのあるまちづくり(観光)
<ul style="list-style-type: none"> ◆農業を守り、地産地消を推進するため、大学や企業など多様な主体と連携しながら地元農家が農作物を生産し続けられるシステムを構築するとともに市内農業について知ることのできる機会の充実を図ります。 ◆農地を保全するため、農業ボランティアの活用や新規農業従事者の育成等による農業への支援体制の充実を図ります。 ◆NPO や市民団体等との連携・協力により、市民が自然を学ぶ場、土とふれ合う場として、学童農園や農業公園の整備を推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆多くの人財や企業・団体などが集い、支え合いながら、よりよい未来に向けて発展していくまちにするため、企業・投資誘致や創業支援などの新たなチャレンジを応援する取組や、産学官民の連携をさらに充実させ、新たな価値を共創する取組を促進する。 ◆市内の企業や大学、業種を超えた中小企業間の交流機会の充実を図り、経済発展と様々な社会的な課題の解決を両立できる新たなビジネスモデルの構築を促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆観光施策とも連携を図りながら、より多くの人々が市内で買い物や食事を楽しむことができるよう、商店街の活性化を支援します。 ◆経営者の高齢化や後継者不足等により、事業の継承に課題を抱えている事業者への相談支援体制の充実を図ります。 ◆経営効率化を図るため、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進に取り組む既存企業を支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆より多くの人々を引き込めるよう、観光と飲食の連携、スポーツや映画等を活かした市内外のだれもがわくわくするイベントの開催、調布ならではの土産物など、既存の地域資源をさらに磨き上げ、その魅力を効果的に情報発信します。 ◆市民と共に、より多くの人々の好奇心を刺激し、魅了できる新たな地域資源を掘り起こし、その地域ならではの魅力を発信することで、まちの魅力の向上やまちの賑わい創出に取り組むとともに、市民の誇りと愛着を深めることに繋がります。

強み(良いところ、伸ばしたいところ)

- 市民農園や農業体験など、市民と農業をつなぐ取組が豊富
- 個人商店(飲食店)が残っており、街の色として楽しめる
- 観光資源が豊富(鬼太郎、映画のまち、武者小路実篤など)
- 文化資産が多い(神社仏閣、スポーツ施設等)、他

弱み(悪いところ、改善したいところ)

- △農地を手放す人や荒廃農地の増加
- △起業にチャレンジしやすい文化づくり
- △市の資源として、市内民間企業の活用や連携を行う余地がある
- △それぞれの目的で調布に訪れた人が、他の資源を活用していない、他

現状と
課題

※斜字は、関連する個別計画等を踏まえた内容です。

分野別
将来像

魅力的で、安全に移動できる交通環境が形成されたまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・子ども連れの方や高齢者、障害のある方など、すべての人が安心して利用できる交通環境や、環境にもやさしい道路の形成を目指します。
- ・街路樹による緑化や無電柱化、舗装の色調等を適切に誘導することで、だれもが市内をゆったりと歩いて楽しめる街並みの形成を目指します。
- ・調布市ミニバスや民間バス、自転車等がさらに活用され、より魅力的で身近な足となるように、分かりやすく利用しやすい公共交通網の実現を目指します。

《将来像につながるキーワード》

人と環境にやさしい、安全・安心、便利、回遊性、歩行者が歩きやすい、歩きながら楽しめる、京王線以外の公共交通の利便性、エンジョイ、やさしく楽しい
100年構想、トラム(路面電車)、ゆったり、ゼロエミッション、ウォーカブル、自転車、道路の保全

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①人と環境にやさしい安全で便利な道路・交通環境の整備

- ◆歩行者や自転車が安全に通行できるよう、歩道の拡幅やバリアフリー化、専用道路や街灯等の整備、無電柱化を促進します。
- ◆脱炭素化にも資するよう、低環境負荷の自動車の利用促進やカーフリーの取組等を通じて、環境にやさしい交通環境の整備を推進します。
- ◆自分で車を運転できない市民も快適に移動できるよう、公共交通の利便性の向上を図るとともに、車や自転車等の多様な移動手段を利用できる道路ネットワークの形成を図ります。

②だれもが、調布らしい歩きたくなるまちづくり

- ◆市民や来訪者も含め、だれもが安らぎを感じながらまちを歩くことができるようにするため、各地区の特性を踏まえながら、街路樹の植栽や適正管理など、調布らしい自然と調和した道づくりを推進します。
- ◆人々に市内観光名所の周遊を促し、賑わいの創出に結びつけるため、シェアサイクル等の取組を推進するとともに、歩行者天国の活用や自転車利用者のマナー向上等を通じて、歩行者が歩きやすいまちづくりを推進します。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)

- 大きな道路(甲州街道, 東八道路, 鶴川街道, 他)が東西南北に走っており, しっかりと整備されている
- 都心へのアクセスのよさ, 交通の便がよいところ
- 南北方向のバス路線が豊富なこと, 他

弱み(悪いところ, 改善したいところ)

- △道路が狭く通行しにくいところがある, 住宅地を中心に道路や歩道が狭い
- △歩くための動線がない(計画的に野川方面, 深大寺方面, 多摩川方面のよう
に明確に歩行者と自転車のための道をつくる)
- △京王線以外の公共交通アクセスの利便性, 他

分野別
将来像

各地域の特色を活かし、多彩な魅力に満ちあふれたまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・各地域の特色や魅力を最大限に引き出し、市内外からより多くの人たちが集い、憩い、活動できるにぎわいに満ちたまちを目指します。
- ・さまざまな世代や世帯のライフスタイルとニーズに応じた住まい方に対応できる、良質な住宅整備環境が整ったまちを目指します。
- ・調布らしい特徴的な街並みを醸し出す優れた景観資源を大切に守り・育て・つくることで、魅力的な景観が形成されたまちを目指します。

《将来像につながるキーワード》

調布らしさ・個性のあるまち（緑があふれる、調布駅前のイベント開催、緑と都市機能が融合しているところ）、地域の特色・魅力、生活利便性、賑わい、ゆとり（快適さ、景観的な要素など）、うるおい、親しみ、安心、良好な街並み、電柱の地中化、多様なライフスタイル自然との共生、街路樹、暮らしがメイン・暮らす日常（のんびりできるまち）、桃源郷的な要素、ゼロエミッション、コンパクトシティ、利便性、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）、ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①エリアごとの特色・魅力を活かしたまちづくり（駅周辺整備）	②だれもが安心して暮らすことができる住環境の整備（住宅）	③調布らしさを醸し出す良好な街並みや景観の維持・形成（景観）	④モデルとなる公共施設の整備
<ul style="list-style-type: none"> ◆調布の顔にふさわしい賑わいとうるおいにあふれ、親しみのある駅前広場となるよう、調布駅周辺において、イベントの実施や調布のシンボルとなるような施設の整備等を検討します。 ◆その他の駅周辺では、各地区の特性に応じた車歩道分離や公共サイン・災害時の案内板等の整備、自然環境や文化的資源等を活かした特色あるまちづくりを推進します。 ◆それぞれの地域の街としての価値の維持・向上を図るため、市民・事業者・地権者等が主体となったエリアマネジメントの手法を取り入れたまちづくりを推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆空き家の廃墟化や老朽化の適切な防止に結びつくよう、市民農園や公共施設等への活用方法を検討します。 ◆高齢者や貧困家庭など、住宅の確保に特に配慮を要する方が地域の中で取り残されず、自立した生活を安定的に送ることができるよう、セーフティネットとなる公営住宅や集合住宅の維持・確保を図ります。 ◆世代や世帯構成、ライフスタイル等に応じた多様な住宅が供給され、子どもから高齢者まで多様な世代がバランスよく居住できる良質な住宅ストックの形成を促進します。 ◆ZEB（ゼブ）や ZEH（ゼッチ）等の環境に配慮した考え方を取り入れた住環境の整備に推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆調布らしい緑あふれる景観を継承するため、農地を含めた緑地を保全するとともに、景観を損なわない建物の整備を誘導するなど、自然と共生したうるおいのあるまちづくりを推進します。 ◆歴史・文化芸術・スポーツなどの地域資源等を活かした調布のまちを代表するような景観を形成するため、景観条例を踏まえた計画的なまちづくりを推進します。 ◆良好な都市景観の創出はもとより、安全で快適な歩行空間の確保や都市防災機能の強化にも結びつくよう、都道や市道における無電柱化を促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆だれもが使いやすく、地域コミュニティが活性化し、絆が醸成する拠点となるよう、ソフト面における機能の充実・仕掛けの工夫を図る。 ◆今後の社会ニーズに対応し、災害への備えや脱炭素化を進めるため、施設の老朽化対策を進めるとともに、再生可能エネルギーの利活用をはじめとするゼロエミッションや、フェーズフリーの考え方を取り入れた各種施策のモデルとなるような公共施設・学校施設の整備に取り組む。

強み（良いところ、伸ばしたいところ）

- 調布駅広場の賑わいの創出、駅前が広くなりスペースを活用できる
- 住民参加のまちづくりが行われている
- 産学官の連携による空き家対策が進んでいる
- 都心に近い場所にありながら、自然が残されている、他

弱み（悪いところ、改善したいところ）

- △駅ごとの特色、多様性のある駅前整備が不十分
- △農地が無秩序に宅地化されていくことで、インフラ整備や適正なまちづくりが追いつかなくなる可能性がある
- △住宅開発の小規模化が進むことで、景観の統一感が失われる、他

現状と
課題

分野別
将来像

豊かな水や緑と共生し、人と人がふれあえるまち 調布

《将来像に込めたあるべきまちの姿》

- ・次世代に誇りをもって継承できるよう、多様な主体が一体となって、地域ぐるみで水と緑の創出や保全、育成に取り組むまちを目指します。
- ・多くの市民が気軽に集い、憩い、心を通わせられる場所として、水辺環境や農地、公園の積極的な活用に取り組むまちを目指します。
- ・市民や地域活動団体を含めた民間活力を活用しながら、公園の新たな魅力づくりや効率的な維持管理・運営に取り組むまちを目指します。

《将来像につ
ながるキーワ
ード》

緑(グリーン)が多い, 自然が豊富, 水辺(ブルー)が多い, 住民自らが緑を守る・育てる, 市民参加(ボランティア, 若者の参加), 安心感を得られるような緑・水,
身近で親しみやすい, めくもり, 公園, 緑を通した人とのつながり, 田園都市, 緑と青に溢れた調布,

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①豊かな自然と共生したまちづくり

- ◆今後も引き続き、豊富な自然と景観を大切に守り・活かすため、既存の緑地や農地等を保全するとともに、所有地や国有地を活用した緑の創出、バランスのとれた緑地開発、適切な農業支援を推進します。
- ◆貴重な自然環境である崖線樹林について、緑豊かな風景を維持するため、保全活動を推進します。
- ◆水源として機能している貴重な湧水や河川等に近接している樹林地等の緑について、河川敷の草地等との連続性に配慮しながら、水辺環境との一体的な保全を図ります。
- ◆市内が水と緑と花でつながることで、人を含むすべての生き物にとって心地のよい緑の環境形成を図ります。

②農地の確保・活用に向けたまちづくり

- ◆農地を守り、地産地消を推進するため、市内の農家・市民が作物を栽培し続けられるシステムを構築します。
- ◆都市農地の保全のため、農業ボランティアの活用や新規農業従事者の育成など農業への支援体制を充実させます。
- ◆NPO法人や市民団体などと連携し、自然を学ぶ場、土と触れ合う場として、学童農園、農業公園などの整備を推進する。
- ◆農業を通じた共生社会を実現するため、農福連携の取組を推進します。

③水辺環境を活かしたまちづくり

- ◆市民等との協働により、貴重な湧水や河川の水辺環境を守るための取組を推進します。
- ◆人々が集い・憩える場所として、治水や河川環境との調和に配慮しながら、人々が集い・憩える場として川辺の活用を図ります。
- ◆地下水や湧水の保全のほか、ゲリラ豪雨による都市水害への対応のため、雨水浸透ますの設置や透水性の高い道路舗装等により、雨水貯留浸透機能の強化を図ります。
- ◆多摩川や野川、仙川等の河川について、河川沿いの緑化等により、水辺環境や景観の向上を図ります。

④身近な公園の整備・憩いの場づくり

- ◆公園がより身近で、安全かつ楽しく遊ぶことができる場となるよう、地域住民の参加による管理手法を取り入れた公園づくりに取り組みます。
- ◆子どもから高齢者まで、だれもが使いやすい公園のあり方やデザイン、災害等の非常時にも対応できるフェーズフリーの考え方を取り入れた遊具や公園の整備を検討します。
- ◆市民が思わず足を留め、憩える公園となるよう、花いっぱい運動等を推進します。
- ◆公園が不足している地域を中心に、提供公園の活用をはじめ、国有地や所有地を有効活用した公園の整備に取り組みます。
- ◆既存の公園施設の日常点検、定期点検を計画的に実施し、長寿命化を図られるよう適時適切な維持管理を実施します。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)

- 市内に自然が多いことを誇りに思っている市民が多い
- 深大寺、佐須地域を中心とした緑豊かな風景
- 多摩川や野川等の豊富な水資源
- ほっとできる公園が充実している、他

弱み(悪いところ, 改善したいところ)

- △宅地開発等で自然が減っている印象を受ける
- △公園、緑道・緑地、崖線の緑の適正管理が不十分
- △河川の整備(氾濫、浸水等を防ぐため)
- △老朽化した公園設備の更新が必要、他

分野別
将来像

脱炭素・循環型社会を形成し、快適で美しいまち 調布

《将来像に込められたあるべきまちの姿》

- ・市全体でクリーンなエネルギーや省エネの普及拡大に努めるとともに、最新の優れた技術を最大限に活用し、持続可能な脱炭素社会の構築を目指します。
- ・市民・事業者による5Rの取組を推進するとともに、ごみの安定処理と適正処理に努め、資源循環型社会の構築を目指します。
- ・「自らのまちは自らがきれいに」を基本原則とし、地域の美化活動を面的に広げることで、快適で美しく清潔なまちを目指します。

《将来像につながるキーワード》

脱炭素社会, ゼロカーボンシティ宣言, 先進都市, 産学官連携, ごみの排出量の抑制, まちの美化, クリーン, 環境にやさしいまちづくり, 循環, 持続可能性(サステナブル), 次世代につなぐ, 暮らし, 地球温暖化対策(二酸化炭素・メタンガス), デジタルで作り出すゼロカーボン先進都市調布, グリーンインフラ, 河川の氾濫防止(市民の安心・安全), ソーラー発電

まちづくりの
方向性と
基本的取組

①脱炭素社会の構築に向けたまちづくり

- ◆トッランナーとして、ゼロカーボンの実現に向け、産学官民一体となり、「2050年までに二酸化炭素排出を実質ゼロ」にする「ゼロカーボンシティ宣言」に基づく取組を積極的に推進します。
- ◆環境学習の取組と併せて、デジタル技術を活用し、情報の「見える化」を図り、市民のアクションにつながる取組を推進します。
- ◆住宅の断熱性向上等による住居の省エネルギー化、業務ビルや店舗等における省エネルギーの推進など、市民・事業者の主体的な環境行動を促進します。
- ◆地域ぐるみで温室効果ガスの排出量を抑制する取組や、河川の氾濫等にもつながる気候変動に伴う異常気象への適応策を推進します。

②ごみの減量と適正処理の推進

- ◆「CHOFU プラスチック・スマートアクション」に基づき、市民・事業者と一体となった行動により、プラスチックごみの減量やプラスチックごみの海洋流出防止につながる取組を積極的に実施していきます。
- ◆ごみの排出量の削減と併せて、コンポストなどのごみの資源化の取組を促進し、循環型社会の仕組みを構築するとともに、環境学習を推進します。
- ◆ごみの発生抑制を最優先に、ごみを出さない、ごみになるものは受け取らないといったごみ減量につながる啓発や、ごみ減量に向けた市民・事業者の自主的な取組を支援します。
- ◆ごみの分別のさらなる徹底等による資源化を推進するとともに、不法投棄対策の充実等によって、ごみの適正処理を推進します。

③良好な都市環境の維持・確保

- ◆大気汚染や水質汚濁、騒音・振動等の公害の未然防止に向けて、監視体制の継続や関係機関とともに、規制・指導を行います。
- ◆空き缶や吸い殻などのポイ捨て防止や喫煙等のマナーが守られるよう、注意喚起等に取り組むとともに、清掃等の美化活動や美化対策の推進によって、快適な都市環境を確保します。
- ◆騒音や悪臭など、地域住民の日常生活に起因する近隣公害の発生を未然に抑制するため、市民の意識啓発に取り組めます。

現状と
課題

強み(良いところ, 伸ばしたいところ)

- ゼロカーボンシティの宣言を行った
- 市民活動団体との協働による環境保全の取組が多く行われている
- ごみの減量対策・分別の徹底
- ボランティアや商店等による、美化活動が積極的に行われている, 他

弱み(悪いところ, 改善したいところ)

- △脱炭素社会に向けてのアクションが、市民レベルまで浸透していない
- △太陽光発電の導入を促す取組が不十分
- △環境活動への参加者が少ない
- △吸い殻や飲食ごみのポイ捨てが絶えていない, 他